

# 新型コロナウイルス感染症対応下における ピア・サポート活動の在り方

山下 京子

(2020年10月9日 受理)

Peer Support in Response to the Spread of COVID-19

Kyoko YAMASHITA

## Abstract

In spring, 2020, graduation and commencement ceremonies across the country were cancelled to prevent the spread of COVID-19. In mid-April 2020, the situation had worsened and a state of emergency was declared nationwide. The new academic year has been vastly different and this situation has presumably had a great impact on freshmen and continuing students as well. This article considers the possibilities and limitations of peer support via remote teaching by looking at teaching “Counseling Practice” in a remote learning environment. It introduces how this subject was taught online this academic year, compares it with the conventional style of teaching, and focuses on peer support. This article proposes, moreover, the necessity of building up the peer support system by considering the benefits and challenges of integrating peer support into teaching.

**Keywords:** COVID-19 新型コロナウイルス感染症, peer support ピア・サポート, counseling カウンセリング, remote teaching and education 遠隔授業, universal design ユニバーサルデザイン

## 1. はじめに

2020年1月31日、世界保健機関（WHO）の緊急委員会は、中華人民共和国湖北省武漢市における新型コロナウイルス関連肺炎の発生状況が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC：Public Health Emergency of International Concern）」に該当すると発表した（厚生労働省<sup>1)</sup>）。文部科学省<sup>2)</sup>は、「新型コロナウイルス感染症の最新情報について（令和2年1月31日18時時点）」において、新型コロナウイルス感染症を指定感染症に指定した。この時点では、

短期間で事態が収束すると予想されたが、「学校の卒業式・入学式等の開催に関する考え方について（令和2年2月25日現在）」（文部科学省<sup>3)</sup>）に示されるように、その後も事態の収束はなく、感染拡大防止のために、全国的に多くの教育機関で、卒業式や入学式の中止が決定された。本学においても、感染拡大防止のために、卒業式・入学式を中止した。2020年4月になっても事態は好転せず、全国緊急事態宣言が出され、新年度の始まりは例年通りとはいかなかった。多くの高等教育機関同様、本学も2020年度の授業開始を約1か月遅れのゴールデンウィーク明けからとし、遠隔授業（オンデマンド）が実施された。本学では、一部の実験や演習科目を除き、前期授業を遠隔授業のまま終了した。筆者の担当する授業科目「カウンセリング実習」も遠隔授業となった。この授業は、一般社団法人全国実務教育協会<sup>4)</sup>の授与する「カウンセリング実務士」資格取得に必要な必修科目として開講しているが、2018年度の全学改組に伴うカリキュラム編成により、2020年度で最後の開講となる科目のうちの一つでもあった。「カウンセリング実習」の基になったのは、本学において2001年度から始めたピア・サポート活動としての「キャンパス・サポーター」である。「キャンパス・サポーター」活動の導入と概要については、山下(2004, 2012)<sup>5,6)</sup>で報告している。「カウンセリング実習」は、「キャンパス・サポーター」活動や学外実習から構成される実践的な授業形態をとっていたが、遠隔授業により活動の中止や延期を余儀なくされた。本稿では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のために、2020年度前期のほとんどの授業が遠隔授業で行われた中で、授業科目「カウンセリング実習」の実際について紹介し、遠隔授業によるピア・サポート活動の可能性と限界について考察を加え、授業目標である「カウンセリング・マインドやカウンセリング技能の向上」を達成できたかどうかを検討する。また、20年間実施してきた「キャンパス・サポーター」活動について振り返り、ピア・サポート活動の今後の課題について明らかにする。

## 2. 授業科目「カウンセリング実習」の概要

2004年度入学生から、本学の人間・社会文化学科(2000～2009年度)、幼児教育心理学科(2007～2020年度)の学生を対象に「カウンセリング実務士」<sup>4)</sup>の資格取得可能な教育課程を整え、必修科目として、2年次に「カウンセリング概論Ⅰ」「カウンセリング概論Ⅱ」、3年次に「カウンセリング演習Ⅰ」「カウンセリング演習Ⅱ」、4年次「カウンセリング実習」を置いた。「カウンセリング実習」では、ピア・サポート活動である「キャンパス・サポーター」(以下C・S)のプログラムと学外実習(2004～2010年度入学生は幼稚園実習、2011～2017年度入学生は福祉施設実習)を中心に授業計画を立てた。

C・Sは、2001年度から「建学の精神である基督教主義に則り、学生相互による援助活動の推

進を通して、学生がより充実した大学生活を送ることのできる環境を提供するもの」として導入された本学独自のピア・サポート活動である（山下，2004）<sup>5)</sup>。ここでのピアの視点は、Cowie & Sharp(1996)<sup>7)</sup>のあげるピア・サポートのうちの一つである「友達づくり」を参考にしており、C・Sを、①学生相互の援助活動をより日常的な枠組みでとらえること、②活動のための準備としてだけでなく、メンタルヘルス教育としても研修を位置付けること、③学生の人格的成長と奉仕の精神を培うことの3点をねらいとして、教育の一環として位置付けた(山下，2004，2012)<sup>5,6)</sup>。C・Sのプログラムは、4月入学式当日とその後のオリエンテーション期間(約1週間)に、新入生のための相談活動を行うことと、年2回行われる夏期・冬期一泊研修会の企画・運営を行うことから構成されており、必要な経費はすべて大学が負担した。

授業科目「カウンセリング実習」の開講は、2004年度入学生が4年生となる2007年度からであった。2007～2013年度までの「カウンセリング実習」のシラバスの概要を表1に示した。表1に示された授業計画の第1～4回の「ピア・カウンセリング実習Ⅰ」と第8～10回の「ピア・カウンセリング実習Ⅱ」が、C・Sの新入生のための相談活動と一泊研修会の企画・運営にそれぞれ該当する。さらに、「プレイ・セラピー実習Ⅰ」「プレイ・セラピー実習Ⅱ」の幼稚園実習が追加された。幼稚園での実習を取り入れた目的は、当初、心理学を学ぶ学科の学生を履修対象としていたため、子どもと触れ合う機会を持ち、子どもと実際に関わることを通して、子どもの心理を理解し、言語的・非言語的な対応の仕方を学ぶことができると考えたからである。この授業は、前期授業科目として置かれているが、「ピア・カウンセリング実習Ⅰ」のうちの第1回は、履修登録前の時間外授業、第2～3回は学内実習、第4回が履修登録後の指定された授業時間内の座学になる。同様に「ピア・カウンセリング実習Ⅱ」の第9回は、学内実習(一泊研修会)であるが、実施時期は、夏期(7月)と冬期(12月)であり、受講生はいずれかの実習に参加するよう求められる。そのために、冬期の場合は前期授業終了後の参加となり、事前事後指導となる授業第8回、10回も、授業外で実施されることになる。授業第6回の「プレイ・セラピー実習Ⅰ」、第12回の「プレイ・セラピー実習Ⅱ」は、キャンパス内にある幼稚園において実施予定であったが、学生の履修授業の関係や学内の諸事情により、後期授業期間、1週間(5日間)1日8時間の実習に振り替えた。幼稚園実習では、受講生各自がテーマを設定し、テーマに従って初日に幼児の行動観察を行った後、翌日からの4日間、幼児と関わりながら遊び行動の観察を行った。

2010年度の「カウンセリング実習」から、保育・幼児教育を学ぶ学科の学生が履修対象となり、ほとんどの履修学生がすでに保育士資格や幼稚園教員免許取得のために保育園や幼稚園で実習を行っており、「カウンセリング実習」における幼稚園実習の存在意義が薄くなってきた。そこで、2014年度から、幼稚園実習を学外の福祉施設実習に変更した。2014～2016年度の「カ

表1 2007～2013年度の「カウンセリング実習」のシラバスの概要

授業の目的	大学学生相談室の相談活動や幼稚園での実習を通して、カウンセリング・マインドやカウンセリング技能の向上を実践的に学習することを目標とする。
授業計画	第1回 ピア・カウンセリング実習Ⅰ (1) 事前指導 第2回 ピア・カウンセリング実習Ⅰ (2) 入学式での新入生と保護者を対象とした相談活動 (1日: 4時間) 第3回 ピア・カウンセリング実習Ⅰ (3) オリエンテーション期間中の新入生と在学生を対象とした相談活動 (1週間: 12時間) 第4回 ピア・カウンセリング実習Ⅰ (4) 事後指導 第5回 幼稚園プレイ・セラピー実習Ⅰ (1) 事前指導 第6回 幼稚園プレイ・セラピー実習Ⅰ (2) 観察実習 (1週間: 10時間) 第7回 幼稚園プレイ・セラピー実習Ⅰ (3) 事後指導 第8回 ピア・カウンセリング実習Ⅱ (1) 事前指導 第9回 ピア・カウンセリング実習Ⅱ (2) グループ・ワーク実習 (1泊2日: 9時間) 第10回 ピア・カウンセリング実習Ⅱ (3) 第11回 幼稚園プレイ・セラピー実習Ⅱ (1) 事前指導 第12回 幼稚園プレイ・セラピー実習Ⅱ (2) 週1回1時間のプレイ (10回: 10時間) 第13回 幼稚園プレイ・セラピー実習Ⅱ (3) 事後指導 第14回 ピア・カウンセリング実習まとめ 第15回 幼稚園プレイセラピーまとめ
授業成果	カウンセリング技能が向上し、日常生活における応用が可能となる。
成績評価の方法	レポート、討論、実習、実習先での評価をもとに、総合的に評価する。なお、10点満点中8点以上の評価を得た場合のみ、単位を取得することができる。
その他	履修条件として、カウンセリング概論Ⅰ・Ⅱ、カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱの全てについて、単位を取得しておく必要がある。幼稚園での実習には、実習費がかかり、受講者の負担である。幼稚園プレイセラピー実習、ピア・カウンセリング実習のすべての実習に参加する必要がある。また、「臨床心理学」「臨床心理学演習」「心理検査法Ⅰ」「心理検査法Ⅱ」の全てを履修、または履修予定であることが望ましい。
ベンチマーク／到達目標	③家庭・地域社会において、子育て支援を行うための基本的な知識・技術 C 対人支援力 C-2 カウンセリングの知識・技能を持ち、地域社会を支えることができる。

「カウンセリング実習」のシラバスの概要を表2に示す。2014年度から、支援対象を障害者に拡大し、障害について学び理解することも、授業内容に含めた。具体的には、授業における情報保障の支援技能として、パソコンを利用したパソコンテイクの訓練を授業時間内に取り入れたことや、学内バリアフリー・マップやトイレマップの作製などである。また、「福祉施設におけるカウンセリング実習」として、学外の福祉施設における1週間の実習を実施した。C・Sの一泊研修会は、時に夏期研修会のみ実施となった年もあったが、2016年まで毎年実施された。しかしながら、夏期研修会を行うことになっていた7月の土日に、大学のオープンキャンパスが何回か行われるようになり、学生も筆者自身も、日程調整が難しくなってきた。また、冬期研修会は12月に行われていたが、企画・運営を行う学生が卒業学年であり、卒業研究提出締め切り直前の時期と重なることもあり、学生の負担が大きすぎるのが課題となっていた。そこで、

表2 2014～2016年度の「カウンセリング実習」のシラバスの概要

<p>授業の目的</p>	<p>大学学生相談室の相談活動や福祉施設等での実習を通して、カウンセリング・マインドやカウンセリング技能の向上を実践的に学習することを目標とする。 到達目標は次の3点である。 ①対人援助の基本的な考え方を理解し、積極的に対人援助を行うことができる。 ②対人援助の技法を習得し、適切に使用できる。 ③適切な支援のコーディネートをすることができる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>第1回 ピア・カウンセリング実習Ⅰ (1) 事前指導 入学式前日に、オリエンテーションを行う。ピア・カウンセリングとして、キャンパス・サポーター活動を取りあげ、新入生の大学適応を促進させるために、どのような援助が必要であるかについて説明する。(講義) キャンパス・サポーターとして、入学式当日の準備を行う。 到達目標①</p> <p>第2回 ピア・カウンセリング実習Ⅰ (2) 入学式での新入生と保護者を対象とした相談活動 (1日: 4時間) 入学式当日、キャンパス内での相談活動に従事する。 到達目標①②</p> <p>第3回 ピア・カウンセリング実習Ⅰ (3) オリエンテーション期間中の新入生と在学生を対象とした相談活動 (1週間: 12時間) 入学式後1週間、昼休みを利用して、相談活動に従事する。場所は、ヒノハラホールの予定。 到達目標①②</p> <p>第4回 ピア・カウンセリング実習Ⅰ (4) 事後指導 指定された授業時間内に行う授業1回目 1週間のキャンパス・サポーター活動について、気づいたことや、問題や改善点などをグループで話し合い、発表する。 到達目標①</p> <p>第5回 支援技能のトレーニング (1) 指定された授業時間内に行う授業2回目 ピア・サポート活動の一環として、授業における情報保障の支援技能を取り上げ、説明を行う。(講義) 到達目標①②</p> <p>第6回 支援技能のトレーニング (2) 指定された授業時間内に行う授業3回目 情報保障の支援技能の習得に向けて、演習課題を行う。 到達目標①②</p> <p>第7回 支援技能のトレーニング (3) 指定された授業時間内に行う授業4回目 情報保障の支援技能の習得に向けて、演習課題を行う。 到達目標①②</p> <p>第8回 支援技能の実践 (1) 指定された授業時間内に行う授業5回目 情報保障の支援技能を用いて、実践活動を行う。 到達目標①②</p> <p>第9回 支援技能の実践 (2) 指定された授業時間内に行う授業6回目</p>

	情報保障の支援技能を用いて、実践活動を行う。 到達目標①②
第10回	支援技能の実践③ 指定された授業時間内に行う授業7回目 情報保障の支援技能を用いて、実践活動を行う。 到達目標①②
第11回	ピア・カウンセリング実習Ⅱ(1)事前指導 指定された授業時間内に行う授業8回目 夏のキャンパス・サポーター泊研修会の企画・運営について、オリエンテーションを行う。(講義) グループで準備について話し合う。 到達目標③
第12回	ピア・カウンセリング実習Ⅱ(2)事前指導 指定された授業時間内に行う授業9回目 グループで準備について話し合う。 到達目標③
第13回	ピア・カウンセリング実習Ⅱ(3)グループ・ワーク実習(1泊2日:9時間) 一泊研修会を行う。 到達目標③
第14回	ピア・カウンセリング実習Ⅱ(4)事後指導 指定された授業時間内に行う授業10回目 グループで話し合い、反省会を行う。 到達目標①②③
第15回	福祉施設等におけるカウンセリング実習(1)事前指導 指定された授業時間内に行う授業11回目 福祉施設等の実習についてオリエンテーションを行う。(講義) 到達目標①
第16回	福祉施設等におけるカウンセリング実習(2)事前指導 指定された授業時間内に行う授業12回目 福祉施設等の実習のテーマについて発表する。 到達目標①
第17回	福祉施設等におけるカウンセリング実習(3)事前指導 実習先で、担当職員によるオリエンテーションを行う。 到達目標①
第18回	福祉施設等におけるカウンセリング実習(4)(1週間:20時間) 福祉施設等におけるカウンセリング実習を行う。 到達目標①②
第19回	福祉施設等におけるカウンセリング実習(5)スーパービジョン・事後指導 指定された授業時間外に行う授業13回目 実習反省会を行う。 到達目標①②
第20回	まとめ 指定された授業時間外に行う授業14回目 カウンセリング実習の反省会を行う。 到達目標①②③

2017年度からは、夏期・冬期研修会を取りやめ、代わりに、本学の「障がい学生高等教育支援室」との共同企画を「ピア・カウンセリング実習Ⅱ」とした。したがって、2001年度から16年間にわたって継続して実施してきたC・S活動の一泊研修会は、終了となった。

2017～2020年度の「カウンセリング実習」のシラバスの概要を表3に示す。本学の「障がい学生高等教育支援室」（以下支援室）は、2014年に開室し、障害学生を対象とし、学修支援を中心とした学内支援のコーディネートをを行っている部署である。「ピア・カウンセリング実習Ⅱ」では、支援室と連携し、支援室で関わっている障害学生と共に、大学祭で模擬店を出店する計画を立て、準備、当日の運営を行うというものであった。「カウンセリング実習」が前期2単位の授業として置かれているために、シラバスの記載において、実際の授業の進行通りではないことと、各年度によって、諸事情により授業内容を若干変更せざるを得ないこともあり、実際の授業の概要がわかりにくいことから、履修年度による授業内容の変遷を整理し、図式化した。図1に、2007年度から2019年度までの「カウンセリング実習」の履修者数、授業内容、実施時期について示した。2014年度からのシラバス記載の「福祉施設等におけるカウンセリング実習」実施に伴い、授業内容に障害者支援に関する学習を追加し、授業の情報保障としてパソコンテイクのトレーニングや、学内のバリアフリーマップ・トイレマップの作製を試みた。本学では、2013年度から、学生のための正課外教育や補習教育等を行うアカデミック・サポート・センター（ASCと略）で、ノート（パソコン）・テイカーを養成し、聴覚障害学生の受講する授業に配置し、情報保障の提供を行っている。「カウンセリング実習」において、履修学生に対する支援技能のトレーニングは行ったものの、ノート（パソコン）・テイカーとして実際の授業配置については、調整が難しく、未だかつて実施できていない。学内マップ・トイレマップについては、2014年度の授業で学内の危険箇所やトイレ事情について調査を行い、マップを作製したが、この時は紙媒体であった。2016年度に学内のすべてのトイレマップを作製し、本学のHPに載せる形で公表した。2019年度には、前年度に学内の大掛かりなトイレ改装が行われたため、改めてトイレマップを作製し、本学のHPにて公表した。

### 3. 2020年度の「カウンセリング実習」の授業の概要

2020年度の「カウンセリング実習」の授業は、表3に示したように、前年度に従い、「ピア・カウンセリング実習Ⅰ」の新入生を対象とした相談活動から始まる予定であった。この活動は、C・S活動でもあり、「春のキャンパス・サポーター活動」として、履修予定学生以外の一般学生も参加対象としていた。例年通り、募集は、前年度末の2月から3月にかけて行い、今回も新3年生と新2年生の数名が参加希望を申し出て、新4年生の「カウンセリング実習」履修予

表3 2017～2020年度の「カウンセリング実習」のシラバスの概要

<b>授業目的</b>	<p>大学学生相談室や障がい学生高等教育支援室における相談・支援活動や福祉施設等での実習を通して、カウンセリング・マインドやカウンセリング技能の向上を実践的に学修することを目的とする。</p> <p>DP5（子育て支援）家庭・地域社会において子育て支援を行うための知識・技術と実践力を身につけることができる。</p>
<b>到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>②</li> <li>③</li> </ul>	<p>対人援助の基本的な考え方を理解し、積極的に対人援助を行うことができる。</p> <p>対人援助の技法を習得し、適切に使用できる。</p> <p>適切な支援のコーディネートをすることができる。</p>
<b>授業計画</b>	
1	<p>ピア・カウンセリング実習Ⅰ（1）事前指導 入学式前日に、オリエンテーションを行う。ピア・カウンセリングとして、キャンパス・サポーター活動を取り上げ、新入生の大学適応を促進させるために、どのような援助が必要であるかについて説明する。（講義）キャンパス・サポーターとして、入学式当日の準備を行う。 到達目標①</p>
2	<p>ピア・カウンセリング実習Ⅰ（2）入学式での新入生と保護者を対象とした相談活動（1日：4時間） 入学式当日、キャンパス内での相談活動に従事する。 到達目標①②</p>
3	<p>ピア・カウンセリング実習Ⅰ（3）オリエンテーション期間中の相談活動（1週間：12時間） 入学式後1週間、昼休みを利用して、相談活動に従事する。場所はヒノハラホールの予定。 到達目標①②</p>
4	<p>ピア・カウンセリング実習Ⅰ（4）事後指導 指定された授業時間内に行う授業1回目 1週間のキャンパス・サポーター活動について、気づいたことや、問題や改善点等をグループで話し合い、発表する。 到達目標①</p>
5	<p>支援技能のトレーニング（1） 指定された授業時間内に行う授業2回目。 ピア・サポート活動の一環として、授業における情報保障の支援技能について説明を行う。（講義） 到達目標①②</p>
6	<p>支援技能のトレーニング（2） 指定された授業時間内に行う授業3回目。 情報保障の支援技能の習得に向けて、演習課題を行う。 到達目標①②</p>
7	<p>支援技能のトレーニング（3） 指定された授業時間内に行う授業4回目。 情報保障の支援技能の習得に向けて、演習課題を行う。 到達目標①②</p>
8	<p>支援技能の実践（1） 指定された授業時間内に行う授業5回目。 情報保障の支援技能を用いて、実践活動を行う。 到達目標①②</p>



9	支援技能の実践② 指定された授業時間内に行う授業6回目。 情報保障の支援技能を用いて、実践活動を行う。 到達目標①②
10	支援技能の実践③ 指定された授業時間内に行う授業7回目。 情報保障の支援技能を用いて、実践活動を行う。 到達目標①②
11	ピア・カウンセリング実習Ⅱ (1) 事前指導 指定された授業時間内に行う授業8回目。 障がい学生高等教育支援室との共同企画について、オリエンテーションを行う。(講義) グループで準備について話し合う。 到達目標③
12	ピア・カウンセリング実習Ⅱ (2) 事前指導 指定された授業時間内に行う授業9回目。 グループで準備について話し合う。 到達目標③
13	ピア・カウンセリング実習Ⅱ (3) 障がい学生高等教育支援室との共同企画の運営 (2日間) 企画の実施時期は、後期になる予定。 到達目標③
14	ピア・カウンセリング実習Ⅱ (4) 事後指導 グループで話し合い、反省会を行う。 到達目標①②③
15	福祉施設等におけるカウンセリング実習 (1) 事前指導 指定された授業時間内に行う授業10回目。 福祉施設等の実習についてオリエンテーションを行う。(講義) 到達目標①
16	福祉施設等におけるカウンセリング実習 (2) 事前指導 指定された授業時間内に行う授業11回目。 福祉施設等における実習のテーマについて発表する。 到達目標①
17	福祉施設等におけるカウンセリング実習 (3) 事前指導 (学外オリエンテーション) 実習先で、担当職員によるオリエンテーションを行う。 到達目標①
18	福祉施設等におけるカウンセリング実習 (4) (1週間:20時間) (学外実習) 福祉施設等におけるカウンセリング実習を行う。 到達目標①②
19	福祉施設等におけるカウンセリング実習 (5) スーパービジョン・事後指導 指定された授業時間外に行う授業1回目。 実習反省会を行う。 到達目標①②
20	まとめ 指定された授業時間外に行う授業2回目。 カウンセリング実習の反省会を行う。 到達目標①②③

対象学科			人間・社会文化学科			幼児教育心理学科									
年度			2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
履修者数			14	8	12	30	23	23	10	23	18	25	14	12	6
シラバス記載事項	C・S活動と学外実習	授業内容	実施時期												
ピア・カウンセリング実習Ⅰ	C・S活動	新入生対象相談活動	4月入学式前から1週間												
ピア・カウンセリング実習Ⅱ	C・S活動	在学生対象一泊研修会の企画・運営	7月または12月一泊二日												
ピア・カウンセリング実習Ⅱ		障がい学生高等教育支援室との共同企画	11月												
幼稚園プレイ・セラー実習Ⅰ・Ⅱ	学外実習	幼稚園観察・参加実習	9月												
福祉施設等におけるカウンセリング	学外実習	福祉施設観察・参加実習	9月												
支援技能のトレーニング		支援技能の習得	5月・6月												
支援技能の実践		学内マップ・トイレマップの作製	6月												

図1 「カウンセリング実習」授業内容の変遷

定者16名と合わせ20数名で、「春のキャンパス・サポーター活動」を実施する予定であった。しかしながら、同じころに学内ではCOVID-19拡大防止対策の検討が行われており、卒業式の中止、入学式の中止が決定した。新入生は学科ごとのプログラムと数日間のオリエンテーション実施、在学生対象のオリエンテーション実施が決まったが、その期間中、新入生の相談活動を「カウンセリング実習」履修学生のみでの参加で実施するかどうかの決断を迫られた。当時、有効な感染対策に関する情報も少なく、履修学生の感染に対する不安も高いと推測できることから実施を取りやめた。大学は、オリエンテーション後、5月連休明けまで休校となり、5月11日から遠隔授業開始となった。

「カウンセリング実習」も Google Classroom を使用しての遠隔授業となった。授業の概要について、表4に経過を示した。4月中に履修登録済みの学生16名に対して、クラスコードを伝え、登録をしてもらい、4月24日に Google Classroom の「ストリーム」に現状の説明を投稿した。表4に示したように、5月1日は受講学生に対して、心身の健康状態に関する質問1項目を行い、「毎日よく眠れるし、よく食べられる」から「ほとんど眠れないし、食欲もなく食事を抜くことが多い」の4件法で選択させたところ、16名中8名が「毎日よく眠れ、よく食べられる」、残り8名が「まあまあよく眠れ、よく食べられる」を選択した。学生の置かれたネット環境については様々であり、中にはパソコンを持っていない学生もおり、6月に入ってから、学内のパソコンルームを許可制で利用できるようになるまで、スマートフォンで課題に取り組まざるを得ない状況であった。このような状況下で開始された「カウンセリング実習」は、第1回から第4回まで、COVID-19への対応により派生した様々な問題について取り上げ、心理的支

表4 2020年度「カウンセリング実習」授業の概要

月日	Google Classroom		内容
4月24日	ストリーム	現状の説明	置かれた状況等について解説
5月1日	授業	アンケート	睡眠と食事に関するアンケート
5月13日	授業	第1回授業配信	PowerPoint 資料
	授業	事後学修課題	Google ドキュメント
5月20日	授業	第2回授業配信	Google ドキュメント
	授業	事後学修課題	Google ドキュメント
5月27日	授業	第3回授業配信	Google ドキュメント
	ストリーム	第3回授業グループ分け	
	ストリーム	各グループでチャット	
6月3日	授業	第4回授業配信	Google ドキュメント
	ストリーム	授業の流れの説明, グループ分け	
	授業	事後学修課題	Google ドキュメント
6月10日	授業	第5回授業配信	リンク
	ストリーム	授業の流れの説明, グループ編成	
	ストリーム	各グループでチャット	
	授業	事後学修課題①	Google ドキュメント

シラバスの変更・学外実習の時期延期・COVID-19による生活の変化と心理的影響。  
 COVID-19拡大予防により派生した諸問題についてレポートを書く。

第1回事後学修課題（全員分）の配布。他の受講生のレポートにコメントをして、派生した問題をカテゴリー分けをする。

第2回事後学修課題（全員分）の配布。  
 グループで話し合い、COVID-19拡大防止により派生した問題をカテゴリーに分ける。  
 COVID-19拡大防止により派生した諸問題の分類。

第3回事後学修課題（全員分）の配布。  
 グループで話し合い、心理的支援が可能な課題について検討する。  
 第3回授業の他のグループの意見も参考にして、心理的支援が可能な事柄を抽出する。

文部科学省<sup>8)</sup>「新型コロナウイルス感染症に対応した小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における教育活動の再開後の児童生徒に対する生徒指導上の留意事項について（通知）」（2初児生第7号、令和2年5月27日）

リンクした文部科学省の資料を読んでコメントし合う。学内における心理的支援の可能性について具体的に検討する。  
 文科省の資料を読んでコメントする。  
 課題：子どもの心理的支援の在り方について。

	授業	事後学修課題②	Google ドキュメント	学内で心理的支援を行うことについてレポートを書く。
6月17日	授業	第6回授業配信	Google ドキュメント	第5回事後学修課題②(全員分)の配布。
	ストリーム	授業の流れの説明, グループ編成		
	ストリーム	各グループでチャット・リーダーでチャット		各グループで担当する分野を決定し, 内容について検討をする。
	授業	事後学修課題	Google ドキュメント	グループの分担決定とグループの制作計画についてレポートを提出。
6月24日	授業	第7回授業配信	動画	新入生を対象とした動画の途中経過。
	ストリーム	各グループによる進捗状況の報告とコメント		
	授業	事後学修課題①	動画	グループごとの作品(完成版)。
	授業	事後学修課題②	Google ドキュメント	計画と実際の制作経過についてのレポート。
7月1日	授業	第8回授業配信①	動画	新入生支援のための大学紹介(4グループの完成作品)。
	授業	第8回授業配信②	Google ドキュメント	第7回事後学修課題②(全員分)の配布。
	ストリーム	授業の流れ 新グループ編成		
	ストリーム	各グループでチャット		グループ作品を鑑賞して講評を行う。
	授業	事後学修課題	Google ドキュメント	1年生の心理支援のための動画制作についてレポートを書く。
7月8日	授業	第9回授業配信	Google ドキュメント	第8回事後学修課題②(全員分)の配布。
	ストリーム	新グループ編成		ユニバーサルデザインについて話し合う。
	授業	事後学修課題	Google ドキュメント	学内でできるユニバーサルデザインの取り組みについてレポートを書く。
7月15日	授業	第10回授業配信	Google ドキュメント	第9回事後学修課題(全員分)の配布。
	ストリーム	グループ編成と分担について話し合い		「学内マップ」作製のために, 取り組むこと, 分担, グループ編成について話し合う。
	授業	事後学修課題	Google ドキュメント	全体の計画・グループの計画について。
7月22日	授業	第11回授業配信	Google ドキュメント	第10回事後学修課題(全員分)の配布。
	ストリーム	授業の流れと今後について		
	ストリーム	各グループでチャット		学内立ち入り調査の計画と許可申請について話し合い。

	授業	事後学修課題	Google ドキュメント	グループでの計画と進捗状況。
7月29日	授業	第12回 課外活動	Google ドキュメント	第11回事後学修課題（全員分）の配布。
9月9日	ストリーム	グループ編成		9月10日施設との交渉。
9月10日	ストリーム	学外実習施設との交渉について		9月11日確定。
9月11日	ストリーム	学外施設実習機関決定と学外オリエンテーション		
9月12日	授業	学外実習 第1回学内オリエンテーション	スライド	
	授業	課題	Google ドキュメント	実習のテーマ。
10月1日		学外実習先でのオリエンテーション		
10月5日～9日		学外実習		
10月12日～16日		学外実習		
10月19日～23日		学外実習		
11月9日～13日		学外実習		

援の必要な問題のカテゴリ分けを行い、心理的支援が可能な問題、心理的支援が必要であるが実現が困難な問題について検討した。第3回目からは、Google Classroomのストリームを用いて、チャット形式で学生同士の話し合いを試みた。Google Meetなどを利用した遠隔双方向授業であれば、学生同士の話し合いもスムーズに行うことが可能であったが、大学側の通信環境の制限もあり、チャット形式を利用した。タイムラグなどの問題も派生し、学生は苦勞していたが、話し合いのプロセスの可視化というメリットもあったと思われた。第5回には、文部科学省<sup>8)</sup>の「新型コロナウイルス感染症に対応した小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における教育活動の再開後の児童生徒に対する生徒指導上の留意事項について（通知）」（2初児生第7号、令和2年5月27日）を資料として取り上げた。第5回から第8回までは、学内における心理的支援の可能性について話し合った結果、同じ学科の新入生に対する心理的支援として動画を作製することになった。本来ならば入学式から1週間実施予定であった、新入生の大学への適応を促進させるための相談活動の代替として動画を作製し、1年生の遠隔授業で配信してもらう計画を立てた。学生は4人ずつの4グループに分かれ、①「先生紹介ビデオ」（学科所属教員の紹介）、②「キャンパス案内」（学内施設の紹介）、③「実習に向けて1年生のうちからできること」（手遊びや名札作り、折り紙、弾き歌い）、④「ようこそ女学院生活へ」（学内・学科行事、課題への取り組み方、大学の良いところ）について、動画を作製した。この頃、大

学では6月8日から限られた一部の実験実習系の対面授業が開始され、学内のパソコンルームも許可申請すれば利用できるようになっていたが、学内への立ち入りは厳しく制限されていた。そのため、動画作製も、学生同士で集まることはできず、すべて遠隔で作業することになった。学生の作製した動画は、ユニバーサルデザインに配慮した、10分前後の作品であり、所属学科の教員の協力により、YouTubeにアップし、学科1年生が全員履修している「初年次セミナー」のGoogle Classroomで、6月下旬から順次配信された。その後、「初年次セミナー」担当教員を通して、動画を視聴した1年生から、「4年生へのメッセージ」が届けられ、そこには1年生の感謝の気持ちが綴られていた。

第9回から第11回は、学内でできるユニバーサルデザインの取り組みについて検討し、チャットで話し合いを重ね、学内マップを作製することになった。この頃は、学内への立ち入りが申請すれば認められるようになっていたため、7月下旬に実地調査に入ることができた。このマップ作製は、ほぼ完成に近い形で仕上がっているものの、7月下旬から、延期されていた実習（保育園、幼稚園、小学校）が実施されることになり、履修学生のほとんどが学外実習に出たために、中断した形となっている。遠隔授業は、第11回で終了となった。8月に入り、大学では、後期授業について三密を避ける形での対面授業の実施が決定したものの、秋に実施されていた大学祭は中止となり、支援室と連携で行う予定であった「ピア・カウンセリング実習Ⅱ」の中止が決定した。さらに、支援室の方でも、支援学生の感染予防のために、後期のノート（パソコン）・テイクアの配置の延期を決定した。

「福祉施設等におけるカウンセリング実習」は、例年9月に学生をいくつかのグループに分けて実施していたが、今年度は1か月遅れの10月からとして、4人ずつの4グループに分けた。グループ編成は、学生により初等教育実習の時期が異なることを考慮し、ほぼ同時期の初等教育実習に参加する学生をひとつのグループとし、実習期間の前後1週間は空くように「福祉施設等におけるカウンセリング実習」の期間を設定した。その結果、4名ずつの4グループで、実習時期は、10月の第2週から第4週、11月の第2週となった。表4に示したように、Google Classroomで、9月12日に学内オリエンテーションを配信し、課題として実習テーマについて提出を求めた。10月1日は、実習先の福祉施設でオリエンテーションを受けた。

#### 4. COVID-19対応による学生への影響と学生支援

2020年4月、COVID-19拡大予防のために、多くの高等教育機関では入学式の中止、新学期授業開始の延期や、遠隔授業の開始など、新入生や在学生に大きな影響を与えた。静岡県立大学(2020)<sup>9)</sup>は、2020年4月25日～5月1日に、学生への影響に関するアンケートを行い、その結

果を速報として公表している。1604名の学生のアンケート結果から、全体の顕著な傾向として、「公共交通機関の利用に対する不安（に伴う不安）」「オンライン授業を含む種々の授業に対する不安（教員からの連絡不足など）」「交友関係やメンタルヘルスの悪化に対する不安」などがあげられ、「1年生の学生生活になじめるのかという不安」についても言及している。2020年4月16日～25日に実施された DoOurBit 学生プロジェクト(2020)<sup>10)</sup> による国内の大学生・大学院生1887名を対象としたインターネットによる無記名アンケート方式による調査では、学生が限られた情報源や報道の中から危機意識を高め、拡大防止に努めていたことが明らかになった。これらのアンケート結果から、学生が COVID-19による様々な不安を抱えながらも、拡大防止に努めて行動していることが推測される。

橋元(2020)<sup>11)</sup> は、全国15歳から69歳の男女3170名を対象としたインターネットによるパネル調査を、2020年3月9～16日と、4月15～17日の2回実施している。2回目の調査は、7都道府県対象の緊急事態宣言の発令1週間後にあたっていた。橋元による調査項目は多岐にわたり、その中で不安、ストレス、抑鬱、孤独感について報告している。橋元によると、全体で不安が高い順から、「収入の減少」「自宅に長くいることによる運動不足」「何となく不安」であり、有職者を除くと、「自宅に長くいることによる運動不足」「何となく不安」「食料、生活必需品の入手」の順であった。また、年層別にみると、10代の第2位の不安が「学校再開後の生活」であった他は、特に差はなかったという。ストレスに関しては、「自由に外出できないこと」「外食できないこと」「楽しみにしているイベントが中止になったこと」の順であった。「何となく不安」の有無とストレスの有無との順位相関分析の結果、学校や会社に通学・通勤できないことでストレスを感じている人が漠然とした不安を抱えていることを示唆していると述べている。橋元の調査では、孤独感は1回目と2回目の調査で変化なく、抑鬱は10代を除く年齢層で2回目に有意に減少していた。抑鬱の減少には「休息し、リラックスする時間の増加」が関係していた。橋元の調査対象の10代は、ほぼ高校生から大学1年生に該当することから、大学1年生は、入学したものの、予想したような大学生活は始まらず、見通しの持てなさを抱え、不安になっていることが推測できる。

時間の経過とともに、COVID-19に対する人々の態度も変化していくのだろうか。鳥海・榊・吉田(2020)<sup>12)</sup> は、2020年1月17日から4月30日の期間中のTwitterのデータを用いて、COVID-19に関するイベントの発生と、ユーザの投稿に現れる感情との関係を明らかにしている。鳥海らによると、2月27日を境としてCOVID-19に関する人々の態度が変化しており、一般的な話題となっていること、2月26日と3月30日において感情成分が大きく変化し、いずれも「怖」の感情が大きくかかっていると報告している。鳥海らによると、COVID-19に関する国内のイベントとして、2月27日に一斉休校の要請、3月29日の著名人の死について取り上げ、身近な有

名人の死が、他のどのようなイベントよりも人々の感情に大きな影響を及ぼしたと指摘している。

2020年4月に大学に入学する学生にとって、新しい環境への移行に伴うストレスだけでなく、COVID-19対応は、さらなるストレスを与えたであろうことは容易に想像できる。また、在学生にとっても、大学構内への立ち入り禁止や、初めての遠隔授業の開始など、これまでに体験したことのない事態が続く日常は、ストレスフルな精神状態であったと思われる。本学における新入生を含めた全学生に対する心理的支援は、教員が学生一人一人に電話やメールを利用して連絡を取り、問題がある場合は関連する部署につなぐという方法をとった。教員によるチューター制度を利用したものであり、4月中旬から前期終了まで、各学科において、継続的に実施された。新入生と教員という関係性を作ることはできたと考えられるが、新入生同士の関係作りは遠隔授業の中では困難であり、先輩との関係となるとほとんど不可能な状態であったと思われる。ピア・サポート活動であるC・S活動は、例年より3か月遅れで、動画配信という形をとった。

平(2018)<sup>13)</sup>は、大学における学生ピア・サポートについて、活動内容を整理し、次の4つに分類した。すなわち、①「対面」-「対話」式支援、②「対面」-「非対話」式支援、③「非対面」-「対話」式支援、④「非対面」-「非対話」式支援である。平によると、①「対面」-「対話」式支援に含まれるものとしては、学生生活相談、グループディスカッション、学習支援などであり、②「対面」-「非対話」式支援には、イベントの企画・実施や講座の開講などであった。③「非対面」-「対話」型支援には、電話や電子メール等を利用した相談であり、④「非対面」-「非対話」型支援には、新聞の発行や資料の作成・配布などであった。本学の「カウンセリング実習」で従来行っていたピア・サポートは、平による分類①を主としていたが、今年度は分類④にあたる。

「カウンセリング実習」履修学生が、新入生に対する心理的支援として提案したのは、Google MeetやZoomなどを利用しての双方向の遠隔相談活動であった。学生相談では、和田(2020)<sup>14)</sup>の報告にあるように、COVID-19対応として、電話やメール、Zoom等を利用した遠隔相談が実施されたと聞く。本学において遠隔授業を開始した当時、履修学生自身が登校できない状況にあり、各自の所有するネット環境や端末を用いて、対する新入生の方も、ネット環境等十分準備できているとはいいがたい状況での学生同士の遠隔相談活動は、他にも解決しなければならない様々な課題があり、現実的に実施は困難であると考えられた。その後、履修学生同士が遠隔で話し合いを重ね、所属学科の新入生を対象として、大学生活への適応に有用な情報について動画を作製することになり、学科所属教員、学内施設、実習、大学生活の4つのテーマを取り上げることになった。グループ内での話し合い、企画、作業の分担、素材集め、撮影、編集



など、動画作製に必要な全てのプロセスが遠隔により実施され、4本の動画が完成した。学科の新入生全員が受講する授業を担当する教員の協力により、これらの動画を遠隔授業で配信し、視聴できるようにした。一方向的な情報提供であったが、COVID-19対応下での、ピア・サポートの在り方の一つのモデルとなると考えられる。

玉水・浦(2016)<sup>15)</sup>は、学内のピア・サポーター17名を対象として、サポートの実態を調査し、「傾聴」「促すサポート」などの社会情緒的サポートが、「選択肢の提示」「自分の経験の提供」などの道具的サポートよりも多く提供されていたと報告している。また玉水らは、サポーターが相談者に受け入れられたと認知したサポートは、「選択肢の提示」が最も多く、社会情緒的なサポートよりも道具的なサポートが受け入れられやすいことを示していたと述べている。

遠隔授業を利用したピア・サポート活動は、道具的なサポートの提供という面では非常に有効な方法であると考えられるが、平<sup>13)</sup>のいう「対面」や「対話」という点では、工夫が必要であろう。今回のピア・サポート活動では、動画作製までのプロセスでは、履修学生同士がチャットやメールなどを用いて対話するという双方向性が存在しており、ピアとして共同作業をすることが成立していたが、動画配信以降は、履修学生から新入生への一方向であり、メッセージという形で感想を受け取ったものの、双方向性としては不十分であったと思われる。ピア・サポートにおいて、サポーター学生の動機づけが指摘されることが多いが、互いに相手を特定化できる、「顔の見える関係」と表現されるような双方向性が、サポーター学生の動機づけを高めることにつながると考えられる。COVID-19対応下では、例えばメールを利用した双方向性もありうると思われ、たとえ一方がまたは両方が匿名であっても、相手を特定化できるのであれば、十分「顔の見える関係」になると予想される。課題としては、メールなどを用いる場合、「話し言葉」と「書き言葉」の伝わり方の違いを意識して、文章を作成する必要がある、サポーター学生の養成において、「話す力」と「書く力」を並行して向上させるプログラムも取り入れることが望まれるだろう。

## 5. お わ り に

澤田(2020)<sup>16)</sup>は、ピア・サポートないしピア・サポーターのタイトルの論文を検索し分析の対象として、日本におけるピア・サポートに関する研究動向を概観している。澤田によると、高等教育領域においては、新入生の適応や、就職に向けたキャリア支援においてピア・サポートが活用されていることが特徴であり、自殺予防対策や地域支援などの新しい課題への活用も試みられている。澤田は、こうした従来の課題と新しい課題の双方において、制度や体制の構築という組織的な課題を併せて考えていくことが必要であると述べている。

本学において20年間実施してきたC・S活動であるが、ボランティアとしてのピア・サポート活動は2001～2006年度の期間であり、その後は、資格取得のための必修科目のうちの1科目の授業内容に組み入れて実施した。活動への参加者数については、ボランティアの時と大差ないが、毎年一定数の参加者数を獲得できたことは事実であり、安定した運営を行うことが可能となった。また、資格取得のための他の必修科目を履修していることで、心理学やカウンセリング理論、カウンセリング技能に関する基礎的な知識・技能を習得できていると想定されることから、改めてサポーターとしての基礎知識や基礎技能を身につけるための研修会は開催しなかった。課題としては、サポート活動に対する動機づけが単位取得のためという傾向が強くなり、他者に対してサポートしたいという意欲は低下したように思われる。「カウンセリング実習」の授業目標である「カウンセリング・マインドやカウンセリング技能の向上」は、ピア・サポート活動と福祉施設における実習において達成される計画であった。ピア・サポート活動については、今年度、遠隔によるサポート活動であったが、動画作製やマップ作りを通して、履修学生は、多様性（ダイバーシティ）に配慮したユニバーサルデザインについて学習したと考えられる。将来、保育職や教職に就く学生に対して、ピアとして、同質性の中にも多様性があることを学ぶ良い機会を提供できたと思われる。この後、実施される予定の福祉施設実習において、さらに対象となる他者の幅を広げ、実際に対話を試みることで、授業目標が達成されることが期待される。「カウンセリング実習」は今年度で閉講となり、これまで20年間行ってきたピア・サポートは一旦終了となる。本学のピア・サポート活動には、C・S活動の他に、聴覚障害学生のための情報保障を行うノート（パソコン）・テイカー制度もある。今後は、サポート内容によるピア・サポート制度を構築する必要があるだろう。

## 謝 辞

長い間、学外実習をお引き受けくださり御指導いただきました 社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会 多機能型事業所よこがわの職員の皆様、また、幼稚園実習で御指導いただきましたゲーンズ幼稚園の教職員の皆様に、心から感謝申し上げます。

## 文 献

- 1) 厚生労働省 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_09267.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09267.html)
- 2) 文部科学省 [https://www.mext.go.jp/content/20200129-mext\\_kenshoku-000004520\\_44.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200129-mext_kenshoku-000004520_44.pdf)
- 3) 文部科学省 [https://www.mext.go.jp/content/20200225-mxt\\_kouhou02-000004520\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200225-mxt_kouhou02-000004520_02.pdf)
- 4) 全国実務教育協会 <https://www.jaucb.gr.jp/>

- 5) 山下京子 2004 大学におけるキャンパス・サポーター・システムの導入に関する実践的研究. 学生相談研究, **25**, 1, 21-31.
- 6) 山下京子 2012 ピア・サポート活動を通してみた発達障害とその傾向のある学生に対する支援のあり方. 広島女学院大学論集, **62**, 11-24.
- 7) Cowie, H. and Sharp, S. 1996 Peer counselling in schools. David Fulton Publishers, London. (高橋通子訳 1997 学校でのピア・カウンセリング. 川島書店.)
- 8) 文部科学省 [https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt\\_kouhou01-000004520\\_5.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt_kouhou01-000004520_5.pdf)
- 9) 静岡県立大学 2020 新型コロナウイルス感染症拡大とその対策の静岡県立大学・同短期大学部の学生に対する影響に関するアンケート集計結果・速報. (<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news/20200512-1/>)
- 10) DoOurBit 学生プロジェクト・西原麻里子・太田悠希子・田口美奈・高橋里奈・国分杏奈・柳ジェイン・兵藤壮亮・藤橋明日香 (監修: 杉下智彦) 2020 強制か自粛か? COVID-19における日本人大学生の意識調査結果. 国際保健医療, **35**, 2, 93-95.
- 11) 橋元良明 2020 新型コロナ渦中の人々の不安・ストレスと抑鬱・孤独感の変化. 情報通信学会誌, **38**, 1, 25-29.
- 12) 鳥海不二夫・榎剛史・吉田光男 2020 ソーシャルメディアを用いた新型コロナ禍における感情変化の分析. 人工知能学会論文誌, **35**, 4, F-K45-1-7.
- 13) 平侑子 2018 学生ピア・サポート活動における非相談型支援の意義と課題—奈良県立大学ピア・キャリア・サポートを事例に—. 奈良県立大学研究季報, **28**, 4, 61-78.
- 14) 和田竜太 2020 一学生相談カウンセラーから見た新型コロナウイルス感染拡大をめぐる動向について—国内外の動きと本学・カウンセリングルームの対応を振り返って—. 京都大学学生総合支援センター紀要, **49**, 73-83.
- 15) 玉水克明・浦光博 2016 追手門学院大学のピア・サポーターが提供するサポートの分析. アサーティブ学習高大接続研究, **1**, 39-49.
- 16) 澤田涼 2020 日本のピア・サポート研究の展望—論文タイトルを用いたテキストマイニング—. 教育論叢, **63**, 33-40.